

特集

医療安全の

歩み



永松 容子 師長

はじめに

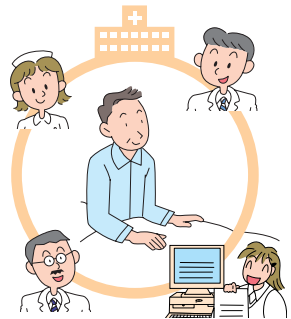
私が医療安全委員として活動を始めて5年が経ちます。この3月に委員を卒業し、無事に次の看護部責任者にバトンタッチすることができました。ほっと安心する気持ちとともに、多くの方たちの指導と援助に支えられて自分は一委員として走ってこられたのだ、とこれまでの5年間で感慨深く振り返っています。

医療事故防止に向けて

1999年11月に横浜市立大学医学部附属病院で起こった手術患者誤認事故がきっかけとなり、厚生省から各病院の医療安全に関する取り組みの推進と体制作りの要請が広がりました。

私は2002年から医療安全委員のメンバーに加わったのですが、何をどうしていったらいいのか全く分からない中でスタートだったことを覚えています。それから数え切れないほどの研修に参加することで「医療における安全とは？」を学習し、当院の安全活動と体制作りを進めてきました。

私が研修に行き始めたころ、「事故防止とリスクマネジメント」という取り組みが活発になっていました。リスクマネジ



決して、難しい技術が足りなかったのはありません。きちんと患者さんを確認するステップが足りなかったのです。今後はそのような実務的な教育も重要になってくるのではないかと思います。苦しいこともありました。学ぶことも多かった5年間でした。委員会活動メンバーからは外れますが、病院職員の一人としてこれからも医療における「安全」に関わっていききたいと思っています。

メントの取り組みで強調されていたことは、「組織で取り組むことの重要性」です。これまでは職種や部署別に検討されていた問題に、職種や部署の垣根を越えて意見を述べ合い、解決策を見出そうとする新しい取り組みが導入されたのです。

病院全体で事故防止を進めていくことが一致団結することが、真の取り組みにつながります。その目指すべきゴールは、医療の質を確保し、選ばれる医療機関になることです。当院も委員会や部会を組織し、報告制度を設けて活動してきました。

安全な医療を目指して

患者さんに安全な医療を提供し、安全な療養生活を送っていただくために、日常業務の中で私たちが知っておかなければならないことはたくさんあります。その知っておくべきことというのは、必ずしも医学や看護学的なことだけとは限りません。むしろ、現場の実務的なことが多いといえます。

例えば、先に挙げた横浜市立大学医学部附属病院のような誤認事故もそうです。

「手術患者誤認事故」とは

横浜国立大学医学部附属病院で起こった肺の手術を行う患者と心臓の手術を行う患者が取り違えられたまま手術が行われた医療事故のことです。

「リスクマネジメント」とは

産業界で用いられた経営管理手法で、日本語では「危険管理」あるいは「危機管理」などと訳訳されています。一般的には、「事故発生を未然に防ぐこと」や「発生した事故を速やかに処理すること」によって、組織の損害を最小のコストで最小限に抑え止めるものと位置付けられています。

当院における安全対策の活動基盤

- ・職員一人ひとりが事故防止の重要性を自身の課題として認識し、事故防止に努めます。
- ・安全で働きやすい職場作りを心掛け、人が対象の医療であることを常に考えて行動します。
- ・職員一人ひとりが患者さんとそのご家族と十分な意思疎通を図ることを心掛けます。



診療科紹介 リハビリテーション科

今年3月から新たに理学療法士(P.T)1名と作業療法士(O.T)1名が加わり、P.T3名(うち非常勤1名)、O.T1名、リハビリ助手1名の計5名で頑張っています。患者さんとの関わりを大切に、たくさん笑顔が見られるように、入院・外来患者さんの機能回復・日常生活動作の練習などに日々励んでいます。



トピックス

寿司バイキングの開催

患者さんの多くに好まれるメニューの一つにお寿司が挙げられます。この春、握り寿司が当院の給食に初めて登場しました。外出や外泊の少ない入院生活の中では、食事やおやつが大きな楽しみになることがあります。そこで、日常の食事とは異なった「バイキング」を取り入れることで、患者の皆さんの食事への楽しみが増え、いつも以上に喜んでいただけるようにと、3度目のバイキングとなる「握り寿司の食べ放題」を開催しました。



食物を飲み込む動作に不安のある患者さんには、ゼラチン粥の小さめのしゃりや薄切りにしたネタや小さく刻んだネタで食べていただきました。この日ばかりは、普段は軟らかいご飯やお粥の患者さんも固めのご飯を希望され、おかわりされるほどでした。

3階のラウンジには、実際にお鮎屋さんのカウンターに並んでいる冷蔵ケースを用意しました。その中に、マグロ、ウニ、海老、鯛、穴子、鮒などの新鮮なネタを並べて、目の前で握られたお寿司を患者の皆さんに食べていただきました。

ガラス越しには春の訪れを感じさせてくれる花々が咲き誇り、彩りを添えてくれます。通所リハビリテーションを利用されている方々も参加され、おいしいお寿司での楽しいひと時になりました。次回のバイキングにもご期待ください。



病院から

快適な環境をバックアップします

当院には、主に重度意識障害の方、肢体不自由1級・2級の方、人工呼吸器を装着された方などが入院されています。長期療養される方が多いため、出来るだけ入院生活を楽しく快適に過ごしていただけるよう、当院なりに療養環境の整備に力を入れています。

その一環として、清掃は委託業者(メンテナンス5名)に全館依頼していますが、当院を訪れる患者さんのご家族や新採用の職員などから、まず一番に「清潔で掃除が行き届いている病院ですね」と誉められます。彼女たちにもそのことを伝えると、「うれしい!これからは頑張ります」と言われました。

当院の職員も委託の職員も心を一つにして、これからも患者さんにも快適な療養環境を作り出せるよう配慮していきたくと思っています。



通所リハビリテーション日記

久しぶりの「おしゃべり」

通所リハビリテーションでは、新たに「買い物ツアー」を企画しました。久しぶりに買い物に出かけるということで、利用者の皆さんは少しばかり緊張しながらも「何を買って帰ろうか」と楽しんで顔を覚えてくれました。

第1回目の訪問先は、サンプリシティ。手芸屋さんではいろいろな小物を見ながら、「私もこれを作ったことがあるよ!」こんな言葉で話しかけたりと、興味津々のご様子。

次は駄菓子屋さんで、「懐かしいねえ」といながらお菓子を買い物がこに入れていきます。レジで商品を渡してお金を支払うときの店員さんとのやりとりは、緊張気味でしたが、無事に商品を手にしたときは、ホッとした表情になりました。

最後はお茶屋さんでティータイム。テーブルを囲んで美味しいお茶とお菓子をいただきながら、買い物の感想などを話されていました。

今後、通所リハビリテーションでは定期的に「買い物ツアー」を行います。次はどこのお店に行くのか、皆さん、楽しみにしてくださいね。



話が尽きないティータイム

選ぶ目は真剣そのもの

居宅介護支援事業所(相談室)をご利用ください。



暖かくなり、緑が目心地よい穏やかな季節となりました。この部署を立ち上げて早一年が過ぎました。無我夢中であつという間の一年でした。最初は、退院される患者さんの在宅支援や施設への紹介などの後方支援が目的でしたが、入院(前方支援)及び退院(後方支援)の一元化を図り、連動したサービスがご提供できるようにと現在は入退院業務も行っています。

後方支援では、退院後もいつまでも住み慣れた地域でお過ごしいただけるように、医療と福祉の連携を図りながら在宅生活を支えます。また、外来及び入院中の患者さんやそのご家族の相談業務も行っています。ご相談内容は直ちに現場に伝え、対応しています。

地域に根ざし、地域の皆さんに信頼され、「この病院へ来て良かった」と満足していただけるように職員一同努力しています。「心と心」の結び付きをモットーに誠意をもって対応いたします。お気軽にご相談ください。

場所/当院1階(通所リハビリテーション室の横)
活動内容/在宅療養のサポート・介護施設への入所のサポート
入院前の医療機関とのやり取り・介護保険に関するサポート
連絡先/093-474-3358

理念 誠意・信頼・安心

- 1・患者さんの意志と権利を尊重した医療の提供
- 2・患者さんと医療情報を共有し、患者さん本位の誠実な医療の推進
- 3・質の高い医療を提供するために職員の教育・設備の安全・保守管理の徹底
- 4・患者さんが継続して、一貫した受診が出来るよう地域医療機関との緊密な連携